

## 病院における看護業務のO A化について

岸 紅 児

昨今看護婦の人手不足が世間で取り沙汰され、特に仕事の重要性和ハードな勤務状況に比較して賃金の低さが看護婦不足に拍車をかけている。今後の高齢化社会の進行と若年労働者数の減少と相俟って95年以降には9.8万人の不足が見込まれ、その対策として看護婦養成の拡充施策と退職ナースの早期職場復帰対策が望まれている。

また別な意見では日本の医療制度では、ナースは医師の補助者または隷属的存在として評価しており、欧米のDoctorは診断と術式や治療の実施責任者として、Nurseは患者の看護と介護の実施責任者として医師と対等の立場にあり互いに協力して患者の病氣治癒まで責任を分担し合っている…と比較すると日本の場合、看護婦の社会的地位評価の低さが医療機関への定着性を弱め、いくら看護学校や看護婦を増やしても病院への歩留りが悪く『穴の開いたバケツに水を汲むに等しい』と看護婦の定着性の悪さは我国医療制度の欠陥と指摘する意見もある。

この度、平成4年4月の医療費改正では薬価の引き下げに対して基準看護や看護料については20%を越えるアップを認め、医師の診断や手技料より大幅の引上げを実施したのも看護婦の労働に対しての評価として見る事ができる。

しかし、いくら賃金が多くても休日不足や深夜勤務等の過酷な仕事に追われては世に言う『3K』職場の誹りは免れない。

どうすればナースの仕事を軽減出来るのか？

我が国の看護学校にて教えるテキストを紐解いてみると

1. 医療制度と病院組織・業務の基礎知識・医療関連基礎用語の解説
2. 看護概論・医療施設の看護の位置と組織・看護活動と看護行為の基本・

臨床看護の特長と理解、病気の経過と看護の有り方

3. 看護のワークシート出力シート・記録と報告 (看護記録、カードイクス、体温表)等

内容中意外と多いのが『ペーパーワーク』である。

また、別の資料に依ると病院勤務の看護婦業務の時間的な割合は  
直接看護＝患者に接して処置（注射や包帯等）看護（体温、呼吸、脈拍測定、患者対応等）介護（患者付添、寝具食事世話等）など、患者と直接接する業務。

\*一日の業務の20～30%位

間接看護＝患者と接しない看護の仕事 カンファレンス（看護計画、治療方針、検討打合せ等）看護記録（患者別経過記録、日誌、体温表、計画表等）申送り（勤務交代引継ぎ）事務作業（処置、注射、給食等伝票発行、カルテ、検査、レントゲンフィルム、等記録物の検索、配送、保管）等の事務的な業務

\*一日の業務の70～80%位

とのことである。

看護婦は病院を構成する人員の過半数を占めており、看護のスペシャリストである。

病院も一つの企業体として見た場合、人・物・金の動きや関係から事務的作業と見なされる仕事に多くの看護婦がかかわっておりながら看護業務に関係するコンピューター化は殆どの病院に於て図られていない。世に多くのコンピューターメーカーがありながら殆ど機械化された例が少なかった。

看護業務はコンピューターとおよそ縁の遠い職種である。

1. 看護支援システム『NURSEwindows』とは

前の頁で述べたように事務的な作業に追われることによりナース本来の業務『患者の病気治癒の介助』に専念する為にはこれらの事務的作業を他者に肩代りするか、機械等によるOA化を図る必要がある。

『事務的作業に追われるのが、ナース本来の仕事だろうか?』

――この疑問を抱いたナース達の訴えを聞いた。ソフトウェア企業が世に贈ったのが『NURSEwindows』である。

NURSE windowsは看護婦達が本来の看護（ベッドサイドケア）に専念出来るように事務的作業に要する時間を出来るだけコンピューターに肩代りさせて看護本来の『ベッドサイドケア』の時間を増やすように工夫されたソフトウェアである。

特長として

1. 転記作業＝医師の指示による注射、処置、検査等の伝票類、カーディックス、予定表、処置票等の処理を一度の入力で必要な形式に加工して表示や出力を可能にすることにより転記作業を大巾に省略している。
2. 病棟は入院患者を抱えて24時間365日の稼働であり、そのため多くの病院では日勤・準夜勤・深夜勤の3交代制である。  
病棟には通常50人前後の患者が入院し、ナースは通常10名の日勤・ナース3名の準夜勤・ナース2名の深夜勤…が勤務している。  
このため、交代の都度前勤から後勤へ患者の容体や処置の経過を伝える報告が行なわれ、これを『申し継ぎ』といい、毎回多くの時間が費やされ（通常1時間位）このための記録の整理や集約に時間を取られている。  
コンピューターはワークシートというフォームを出力してナース達の引継ぎ時間を省く。  
引継ぎの作業軽減によりナースの患者対応時間が増して信頼の度を深めることができる。このほか手術や検査等の病棟外への移転や転棟等に対応できるのでチームナースの向上に役立つ。
3. 手術や検査等技倆と視点等、病棟毎に違いのある業務は看護学校では到底習得は無理でありベテランと新米の差の別れるところ、ベテランはますます忙しく新米はウロウロして処置や検査に支障が出る。  
コンピューターは処置や検査に必要な情報をベテランナースと同レベルのデータとして事前・事後何時でも必要項目は検索や出力を確認できる。
4. 病棟は内科、外科、産婦人科等の診療科別毎の病棟制を取ったり、病棟毎の業務の水準や様式が異なったりし、配置替えがあるとナースも他の病棟ではまごつくことが多い、コンピューターは病棟毎独自の業務を高いレベルで標準化しどの病棟でもまごつかずに業務を遂行することができる。
5. 病棟はカルテ・看護記録・カーディックス等、多数の情報が記録され迅速正確に把握することが難しい。コンピューターは患者毎にカルテ・看

護記録・カーディックス等体系的に一元的に管理し、ナースに適切な判断や処理の出来るよう支援する。

6. カンファレンスはよりよき看護の立案のため重要なのに、忙しい現実を追われて十分な時間を持ってない、コンピューターは充実した「カンファレンス」や「チームナーシング」に有効な情報を提供し患者看護に高い目標で取り組める。

これら細々とした看護のディティールが多くの看護婦達の業務を標準化し、均一且つ、ハイレベルの質を定着させることになる。

NURSEwindowsは「コンピューター」の「キーボード」操作に代り『マウス』と呼ぶ装置を机の上で任意に動かし「クリック」と呼ぶボタン操作でディスプレイに現れるウインドウの項目毎の欄にポインターを当てるだけで入力出来る。

画面のデザインもカラフルで幾つかの画面が一度に比較確認しながら操作できる、丁度ファミコンのようにゲームを楽しむ感覚で取扱いができる。

従って操作の教育や勉強は殆ど必要とせず、看護婦達の使う言葉や用語で通常の業務の遂行と何等変りなく操作できる。

忙しい時は立ったまま使用出来る。

NURSEwindowsは煩雑な「キーボード」操作は殆どなくディスプレイを見て必要項目にポインターを当てて「クリック」するだけでデータの入力や変更の出来ることが忙しいナースにとって大変使いやすいコンピューターとして受け止められている。

## 2. 看護支援システム『NURSEwindows』のシステム構成

病棟は通常50床前後の単位で1ナースステーションを構成しており、各ナースステーションは最低1台のワークステーションが配置され400床程度の病院では8～9台のワークステーションが置かれる。通常病院の病棟はフロア毎のナースステーション単位で病棟毎にほぼ比例して配置される。

院内の各ナースステーションはLAN回線にて結ばれている。

病棟は病院の規模や機構（総合病院・一般病院・専門病院）によって診療料（内科・外科等）毎に区分した病棟や幾つかの診療料を一緒にした「混合病棟」等色々な形態が有り、内容に合わせたソフトを塔載したワークステーション

ンが配置される。

3. 『NURSEwindows』が「ベッドサイドケア」の充実に役立つ理由  
看護業務における事務作業を効率よく短時間ですませ、多くの時間を質の高いベッドサイドケアに充当できる理由は、次の7項目を上げることができる。

1. NURSEwindowsは一度情報を入力すれば随時、必要な形式で表示・出力する事ができるので転記漏れや誤記入が無くなる。
2. NURSEwindowsで作成したワークシートにより「申し継ぎ」にかかる時間を大幅に短縮できる。
3. 患者の情報を全ての看護婦が照会・索引することが出来るので、受持ち外の患者であっても適切な対応ができ、チームナースの向上に役立つ。
4. NURSEwindowsはオペや検査などの事前・事後に必要な項目を検索・確認できるので新人ナースもベテランナースと同一レベルのケアが行える。
5. 病棟毎、独自のスタイルにて行われていた事務作業を高いレベルで標準化できる、どの病棟でもとまどうことなく仕事ができる。
6. NURSEwindowsは患者の情報を体系的に管理し適切な判断や処理が出来るようにプログラムされている。
7. NURSEwindowsはカンファレンスやチームナースの一層の向上や高い目標に取り組むことができるので看護婦達に時間的な余裕を得ることができ、これがベッドサイド・ケアの充実につながる、画面はカラフルで判りやすい「マルチウィンドウ方式」を採用して「マウス」操作だけで必要な情報を表示でき、初心者でも楽に操作できる。

NURSEwindowsはパッケージ化されているので導入も容易で直ぐに慣れて活用できる。

このパッケージは多くのナースの方達の意見と要望を受入れ作成されたキメの細かい配慮と実践に即応した看護婦になじみ易いシステムである。

#### 4. 『NURSEwindows』の効果と今後の展望

##### 1. NURSEwindowsの効果

某病院（400床総合病院の例）に導入された分析結果は次の通り

NURSEwindowsにより内科50床／ナースステーションの看護婦間接看護の削減時間（一日当たり）

- \* 検査（カーディックス・申し送り簿）      \* 処置（カーディックス）
  - \* 食事箋・食事一覧      \* 週間業務チームカード
  - \* ホワイトボード（検査予定）      \* バイタルサイン（検温・脈拍・呼吸）
  - \* ナース個人のワークシートメモ      \* 在院患者報告書・空床状況報告
- 合計…265／分（4時間25分）

この結果、従来日勤勤務者の直接看護率は26%より36%へ向上しベッドサイドケアの時間が約50分（看護婦一人当）増加した。

NURSEwindows導入による効果をまとめると

- \* 1. 直接効果＝転記作業の軽減による新人ナースの教育育成期間の短縮、等により病棟患者に対するゆとりができてサービスの質があがる。
- \* 2. 間接効果＝時間的なゆとりからカンファレンスや看護計画等の時間が生まれ管理水準の向上や看護婦のローテーションが容易に出来るので患者との対応がよくなり、患者のナースに対する信頼性が向上し『チョット待って下さい』…の減少…となる。
- \* 3. 将来への期待効果＝患者サービス向上、看護婦の定着性安定、看護部門の活性化、等。

##### 2. NURSEwindowsや看護関連ソフトの今後の開発計画

- \* 看護計画の作成＝看護サマリー・カンファレンス等計画業務を推進する。
- \*注 LAN回線とはLocal Area Networkの略、オフィスや病院内に光ケーブルや通信線を張ってパソコンや情報機器端末を接続したネットワークのこと

以 上